

◆研修会特集◆

病院司書としての文献検索： 基本のおさらいと状況に合わせた対応のあれこれ

小嶋 智美

抄録：病院司書は、臨床に最も近い情報サービス職である。病院司書が検索業務を担当することは、司書自身にも知識・技術の獲得や認知度を上げる等のメリットがある。本稿では病院司書による文献検索を「臨床家に寄り添った検索を行い、検索戦略・検索手法を明確に説明できる」と定義する。主題分析の段階では、主題内容だけでなく依頼者の立場や目的、質問の種類を考慮する。適切な検索を行うために、データベースの機能やシソーラスの仕組みを理解する。医学・医療の知識や英語等の関連学習も行う。自信を持って検索業務を遂行するには経験の蓄積が必要であり、積極的に機会を設けることが望ましい。
キーワード：病院司書、文献検索、データベース、主題分析

I. はじめに

本稿は、2015年7月25日に開催された第22回日赤図書室協議会研修会・総会（以下、本研修）の公開講座「病院司書としての文献検索：基本のおさらいと状況に合わせた対応のあれこれ」の講義録です。ただし、掲載のためにすべての講義内容を文字に起こしたわけではないことをご了承ください。

II. 「病院司書としての文献検索」とは

1. 「病院司書」とは？

病院司書は勤務先が病院ですから、臨床に最も近い情報サービス職だといえます。サービス対象は所属先の構成員が中心となります

が、その中でも臨床家からのニーズに応える業務が多くを占めるのではないのでしょうか。

2. 病院司書による文献検索の必要性

本研修の依頼を受諾する際、研修担当の方からご提示のあった仮題は、「あなたの病院のドクターが診療ガイドライン委員になったらどうフォローしますか？：図書館員としてのフォロー」でした。本研修の会場でそのような経験・予定があるか挙手で伺ったところ、ほとんど手は挙がりませんでした。また本研修の事前打ち合わせや講義後の質疑応答、事後のアンケートでは、勤務先で検索の依頼があったことはない、文献検索は司書の業務ではない、という回答がありました。

PubMed や医中誌 Web 等、文献検索用のデータベースは、エンドユーザーにも使いやすいインターフェースを提供し、改良を重ね続けています。文献検索に関する高いスキル

KOJIMA Satomi
Independent Librarian
satk_embli@yaho.co.jp

を持った臨床家が、後進の指導を行っています¹⁾。では、病院司書が文献検索を行う必要はないのでしょうか。

3. 病院司書が検索能力を高める理由

病院司書が文献検索を行うこと、検索のスキルを持つことのメリットを考えてみましょう。

まずは「利用者の時間を節約する」ということが挙げられます。多忙な臨床家の学習や調査に要する労力を軽減させるということです。これは一般的な図書館サービスのうち、レファレンス・サービスにあたります。また病院司書に文献検索のスキルがあれば、利用教育として臨床家に検索指導を行い、彼らの検索スキルをより高めることができます。臨床研究においても、臨床家とは異なる視点を持つ司書が文献検索を担当すれば、研究のプロセスに客観性・公平性が加わります。間接的ではありますが、研究や医療の質向上に寄与しているともいえます。

一方、文献検索業務は病院司書にもメリットがあります。まずは「医学・医療に関する知識の獲得」です。検索は、依頼者の質問内容を理解・分析することから始まります。調査や検索作業のプロセスで得た医学・医療に関する知識は、選書や分類作業等、検索以外の業務にも役立ちます。検索結果が適切であったかは書誌事項である程度判断しますから、同じく書誌事項を元に業務を行う文献複写等の相互利用（ILL）にも役立てることができるでしょう。次に「検索技能の向上」です。検索技能は、知識や技術の学習と共に、経験を重ねることで高められます。さらに代行検索サービスを積極的に展開すれば、業務遂行と同時に司書が医学・医療情報サービスの専門家であることを所属員に印象づけることが

できます。文献検索業務が、図書館や病院司書の存在意義をアピールできる、いわば広報活動になり得る面があるということです。

4. 「餅は餅屋」と言われるように

臨床家が医学・医療の専門家であるように、病院司書は医学・医療情報サービスの専門家であるはずですが。病院司書が院内で「餅は餅屋」と言われるような存在になるには、自身の専門性を磨くことが基本です。文献検索の能力も、その専門性のひとつです。

5. 病院司書としての文献検索：本稿での定義

本稿では、病院司書としての検索を「臨床家に寄り添った検索を行い、検索戦略・検索手法を明確に説明できる」とことと定義します。

Ⅲ. 検索業務に求められる知識と技能

本章では、検索業務に求められる知識と技能を「主題分析」「検索（実際の検索作業）」「研鑽」の観点から解説します。

1. 主題分析

(1) 質問（依頼内容）の理解

実際の検索を行う前に、まず依頼者がどのようなトピックに関する文献を探しているかを理解します。また「その文献をどのような場面で使うのか」等、文献入手の目的も把握します。臨床家が文献を必要とする場面は、「臨床研究」「卒後臨床研修（教育）」「症例検討会」「看護研究」「学会発表」「論文執筆」「認定試験対策」「自己研鑽」等、さまざまです。したがって、病院司書には主題検索の能力と共に、文献を使う場面や目的に応じ、検索対象や検索方法をコントロールできること

も求められます。

(2) 質問・目的に沿ったツールの選択

質問は「Background Questions (以下、BQ)」「Foreground Questions (以下、FQ)」の二種類に大きく分けられます。BQとは総論的・背景的・基本的な疑問のことで、疾患の定義やメカニズム、一般的な診断・治療法等「知識」を得ることで解決できるものです。事辞典類や教科書・参考書のほか、『UptoDate』『DynaMed』『今日の診療』等の診療サポートツールや、診療ガイドライン等の二次資料が役立ちます。

FQは、個別の意思決定のための疑問です。FQではBQが解決済みであり、その先の「知恵」を必要とします。実際の研究や文献で得られた結果等が意志決定の判断材料となり、その判断も状況により変化します。FQの解決には、BQで用いたツールと共に『PubMed』『医中誌 Web』等の書誌データベースが役立ちます。

(3) 検索戦略を練る

レファレンスインタビューでは、検索戦略を立てる上で必要な情報を収集します。疾患や症状、介入や曝露、調査対象（年齢、性別等の特性）等、適切な文献を検索・判断するための事柄です（図1）。

基本

検索戦略を練る [1]

- レファレンスインタビュー
 - 戦略を立てる上で必要な事柄を収集する
 - 疾患・症状
 - 臨床場面：病因・診断などの**疑問のカテゴリ**
 - 依頼者の説明で判断できることが多い
 - 介入・曝露・要因（比較するものがあればそれも）
 - 調査対象（年齢、人種、ヒト） など

できるかぎりくわしく聞く
司書には守秘義務があります

2015/07/25
第2回日赤図書館協議会研修会
24

図1

質問内容が理解できない場合は、BQの解決に用いられるツールが役に立ちます。質問内容から検索戦略をたてる際、PICO（図2）を活用して整理すると検索の観点が明確になります。病因・診断・治療・予後等の疑問のカテゴリは依頼者の説明である程度判断できます（図3）。

基本

検索戦略を練る [2]

- 質問内容の定式化：PICOを活用
 - P (patient, population, problem) : ある対象に
 - I (Intervention, IF, ※exposure) : ○○をすると
 - C (comparison, control) : ××に比べて
 - O (outcome) : どうなるか

「疑問のカテゴリ」によって
意識するポイントが変化する

2015/07/25
第2回日赤図書館協議会研修会
26

図2

基本

疑問のカテゴリ別PICOの例

	病因	治療
P	患者の特徴や症状	対象疾患・症状
I	曝露の因子	治療法
C	Iとは異なる因子	Iとは異なる治療法
O	考えられるリスク 罹患率 など	治療効果、副作用、 費用効果 など

※「C」はない場合もある（“しない”という行為も含む）

2015/07/25
第2回日赤図書館協議会研修会
28

図3

2. 検索

検索戦略を検索式の形で表現するためには情報検索の基本知識を習得するとともに、各データベースの検索機能を熟知しておくことが大切です。ここでは『PubMed』『医中誌 Web』『Cochrane Library』を例にして、それらの一部を説明します。

(1) 演算子・フレーズ

演算子は、設定した検索語を用いる際の条件を指定する機能です。検索語同士の関係を示すブール演算子は『PubMed』『医中誌 Web』『Cochrane Library』で（ただし AND/OR/NOT のみ）、検索語間の距離を指定できる近接演算子は『Cochrane Library』で用いることができます。

二語以上で構成された用語や文章をその表記のとおり検索したい時に有効なのが、フレーズ検索です。フレーズとしてまとめることにより、ノイズを減らすことができます。二重引用符「””」で指定することが多く、今回の例に挙げたデータベースもすべてこの方法でフレーズ検索を用いることができます。

(2) タグ

タイトルや抄録、著者名等、検索フィールドを指定するために用いるのがタグ（フィールドタグ・検索タグ）です。タイトルを指定して検索したい場合、『PubMed』は「[TI]」を、『医中誌 Web』は「/TI」を、『The Cochrane Library』は「:ti」を用います。

(3) マッピング

『PubMed』『医中誌 Web』には、入力した語に併せて適切なシソーラス用語等を検索に加える「自動マッピング」の機能があります。それぞれのデータベースによってマッピングの照合先は異なります（図4）。検索方法によっては、マッピングが機能しないことや検索の意図に沿わない用語が入ってしまうことがあります。各データベースに用意されている検索式の編集画面で、実際にどのような検索が行われているかを必ず確認しましょう。

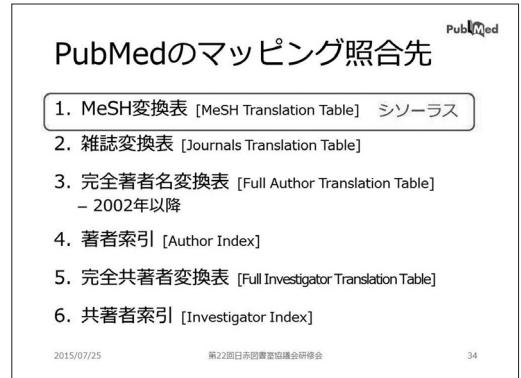


図4

(4) シソーラス

『PubMed』と『Cochrane Library』は『Medical Subject Headings（医学件名標目表、MeSH）』、『医中誌 Web』は『医学用語シソーラス』というように、各データベースで用いるシソーラスは決まっています。

シソーラスとは「索引、検索用の構造化された統制語彙集」²⁾のことです。「統制」とは、ばらばらなものをまとめるという意味です。シソーラスでは、まとめた語彙はすべて同義であるとみなされます。講義では、地域や提供元によって多数の呼び名を持つ「今川焼き」を例に挙げました。

索引や検索に用いられるシソーラスでは、その用途に適した形で語彙を整理することが必要です。要件として、大きく二つの点が挙げられます。一点目は「構造化されている」ことです。用語の役割（主題や主題に対する特定の視点を表すもの）や用語の包摂関係（概念の広狭や関連概念への案内・関係性）が整理されているということです。二点目は「索引のためのルールがある」ことです。そのシソーラスを用いて文献の内容や形式を表現する方法を理解すれば、よりの確に検索することができるようになります。

シソーラスを用いた検索は、索引語が付与

された文献のみが対象となり、未索引や索引対象外の書誌データは検索対象外となります。シソーラスとフリーワードをうまく組み合わせながら、できるだけ目的に合った検索を心がけましょう。フリーワードを考えるコツとしては、「日常業務の中で医学・医療に関する知識を増やす」「検索対象領域に関する基本書や用語辞典を活用する」「BQで用いるツールや既知文献からよく使われる語を探す」等があります。またシソーラスに記載された非表現形（同義語）もフリーワードとして検索に活用することができます。

(5) クエリ・マイページの活用

PubMedには、Clinical Queriesをはじめとするトピック別のクエリが用意されています。あらかじめ設定された検索フィルターを活用して文献を探ることができる、忙しい臨床家にとっては大変便利な機能です。『医中誌 Web』にも看護や歯学等の絞り込み項目が用意されています。また、各データベースに用意されたマイページを設定しておけば、検索式や気になった文献の書誌データを保存することができます。マイページは『PubMed』『医中誌 Web』『Cochrane Library』すべてで設定できます。

(6) 検索結果の評価

適切な検索をしたかどうかの判断は、検索式ではなく結果で決められるものです。依頼者の要望に合った文献が結果に現れていない場合は、すぐに再検索を行うことが求められます。

利用者への提示前に司書が行う確認作業は、二段階で考えます。まずは、ヒットした文献のタイトルをざっと見ます。大半の医学文献は、タイトルで内容が表現されているからです。その段階で問題がなさそうなら、次はタ

イトル以外の情報（抄録、索引語等）を見ます。『PubMed』であれば「Abstract形式」、『医中誌 Web』であれば「詳細表示」に切り替えます。確認作業の段階で検索が不適切だったと判断した場合は、検索式を確認・修正します。修正する際の着目点は、検索語・演算子・タグ・絞込方法等です。この作業を納得できるまで繰り返します。それでも適切な結果が得られない場合は、依頼者に探索過程を説明し、討議をした上で再度検索戦略を練り直しましょう。大切なのは、司書だけの判断でひとりよがりな検索をしないことです。司書が検索を依頼されたとしても、得られた結果を活用するのは依頼者です。お互いに協同する姿勢を忘れないようにしましょう。

3. 研鑽：自信を持って検索を行うために

(1) 検索技能

検索技能を高める一番の方法は、「検索をする」ことです。機会がなければ作るくらいの意識で経験を蓄積しましょう。

自習をする際、まずはマニュアルやチュートリアルを活用し、そのとおりに検索を試みましょう。データベースの中で使ったことのない機能があれば臆せず試みましょう。自己研鑽と業務の双方で検索経験を蓄積していくと、自分に合った効率の良い方法が見えてくるかもしれません。その際はぜひ、仲間内や勉強会で方法をシェアしてみましょう。伝えることで自分が理解しきれていなかった事に気づくかもしれませんし、シェアした相手から自分では思いつかないようなコツを教えてもらえるかもしれません。

(2) 関連学習

病院司書は医学・医療の文献を検索するわけですから、当該分野の研究手法を知ること

も大切です。『ICR 臨床研究入門』³⁾は臨床家や臨床研究関係者のためのEラーニングサイトですが、一般向けのわかりやすいコンテンツも用意されています。Evidence-Based Medicine (EBM) に関する最新の知見は『Centre for Evidence-Based Medicine』⁴⁾等で得られます。医学文献に慣れておくのも大切です。代表的な医学雑誌に掲載された論文に目を通すため、英語の力も高めておくといよいでしょう。さらに「検索戦略・検索手法を明確に説明できる(本稿第Ⅱ章5項参照)」には、「伝え方」を学ぶ必要があるかもしれません。伝え方を向上させるために研修や研究会、動画サイト等で他の人のプレゼンテーションを参考にするのもいいでしょう。ただし「伝えたいという強い気持ちはどんな技法をも超える」「伝え方を学ぶ最良の方法は自らが伝える人になること」もまた、真実です。はじめから完璧に行うことは考えず、アウトプットを優先しながら研鑽を重ねていきましょう。

IV. おわりに

講義では、冒頭で「病院司書ならではの文献検索を意識できるようになる」という目標を提示して進めました。では、その目標は何を「目的」としているのでしょうか。

それは、本稿第Ⅱ章の4項で示したとおり、

「餅は餅屋になること」です。臨床における情報サービスの専門職として、医療の質向上に貢献することが病院司書の使命であり、今回講義で取り上げた文献検索は、その使命を遂行するためのひとつのピースに過ぎません。

最後に、本研修に参加された方や本稿に目を通してくださった病院司書の方に質問です。「あなたは病院司書として、その病院あるいは社会で、どのような存在になりたいですか」どうぞ、ご自分なりの考えを掘り下げてみてください。

引用文献

- 1) 南郷栄秀. 資料集—最もシンプルで分かりやすいPubMed 検索法. The SPELL. [引用 2015.9.22]. http://spell.umin.jp/EBM_materials_PubMed.html
- 2) 日本図書館情報学会用語辞典編集委員会編. 図書館情報学用語辞典. 第3版. 東京：丸善；2007.
- 3) 平成24年度厚生労働科学研究費補助金『e-learning システム ICRweb を用いた臨床研究・治験に携わる人材の育成方法に関する研究』班. ICR 臨床研究入門. [引用 2015.9.22]. <http://www.icrweb.jp/>
- 4) Centre for Evidence-Based Medicine. Home-CEBM. [引用 2015.9.22]. <http://www.cebm.net/>